

ソフトスキルの構造と社会変化の関係解明

Society and the Structure of Soft Skills

カンバルテル ルート (経済学部助教授)

Ruth Kambartel (Associate Professor, Faculty of Economics)

1 出発点

この研究は、現在の社会が個人に求めるソフトスキルズと社会の状況・変化の関係を、哲学的方法を使って解明しようとしています。

“ソフトスキルズ”という表現は英語、日本語、ドイツ語などで使われてきて、グローバルな単語になりました：“soft skills”、“ソフトスキルズ”、“Soft Skills”。個人に求められているソフトスキルズは、人間社会の変化とそれに伴うニーズの変化によって変わります。ソフトスキルズの内容はまさに、社会の（要求の）変化と個人のそれに応えるニーズの変化を解明するために使える“資料”になります。

ソフトスキルズを教える文献が最近、さまざまな国で圧倒的に増えてきています。たとえばドイツでは、最近のnon-fiction ベストセラーリストを分析したら、ソフトスキルズについての文献がリストの大部分を取ります。外国語などを教える教材、たとえば日本人に英語を教える教材にもソフトスキルズ教育が一緒に入っていることが目立つようになりました。文献類以外も、ソフトスキルズは（ビジネス）トレーニングセミナーではもちろん、大学までも教えられるようになりました。

2 整理

ソフトスキルズにはたとえば次のようなものがあって、次のように整理することにしました：

- 自己管理・self-development・self-empowerment能力類：情報マネジメント力（特にinformation-overloadについての情報管理能力）、計画力、目的追求力、決断力、問題解決力、変化順応力、（自己）改善力、学習力、能力不足コンペンセーション力（ability to compensate for insufficient competencies）等、そして高齢者社会の中に特に大事なlife course planning skills とエージングスキルズまでもその中に入ります。
- ヒューマンインタラクションマネジメント（人間の相互行為管理）能力類：（意思）伝達力、コンフリクトストラテジー力、折衝力、説得力、チームワーク力、協力力、コンタクトマネジメント力、ネットワーキング力、異文化コミュニケーション力等、そして外国語能力までもその中に入ります。

3 活動

平成18年度、研究にとって代表的であるといわれる文献を、まずは主にドイツから集めて・選んで、そし

て該当文献について、哲学的な考察を行い始めました。ドイツの研究者、哲学者（特に方法相談のため）とコンタクトを取って、またはコンタクトを続けました。

授業の中で直接応用：平成18年度の経済学部欧米事情授業に“異文化ビジネスコミュニケーション”を入れました。平成18年度の留学生センターSTEPSプログラムの“現代日本社会”授業に“ソフトスキルズ”を入れました。

4 新しい研究発展・方向・構造

資料を集めて、資料を考察しながら、研究スコープが広すぎてフォーカスがなくなるか、最初からフォーカスが足りなかったか、という状態を感じて、研究の方向と構造を考え直す必要があると分かりました。考察しながら出てきたさまざまな基本概念のほうに注意・集中するという方向に研究が動きました。以下述べる“Managing and Measuring”という会議発表・ペーパーはその動きの最初の結果です。たとえば、基本概念として(英語で言えば) soft skills, managing, exactness, perfection, appearance („for show “) and reality, doubt, modesty, そして(英語には存在しませんが、日本語で言えば“余裕”・(ドイツ語で言えば) “Spielraum” という概念を考察し始めて、互いの関係を19年度にも続けて考えたいと思います。

発表とペーパー：

- 2006/10/07 岡山大学・JALT 会議発表: Ruth Kambartel: “Managing university: A few philosophical thoughts on management, research, and education in universities in times of change”
- Kambartel, R. (2007). Managing and measuring: A few philosophical thoughts about university in times of change. In *Professional development in language teaching: Proceedings of the JALT and Okayama University conference on professional development in language teaching*. T. Brunelli, N. Cowie & N. Fujishima (eds). Okayama, Japan: Foreign Language Education Centre, Okayama University, page 15 to 18.